

津島市国民健康保険保健事業実施計画 (データヘルス計画)

(平成28年度～平成29年度)

平成28年2月
津島市国民健康保険

目次

第1節

基本事項

- 1 背景
- 2 目的
- 3 計画の位置づけ
- 4 計画期間

第2節

記載すべき事項

- 1 地域の特性
- 2 健康・医療情報の分析及び分析結果に基づく健康課題の把握
- 3 目的・目標の設定
- 4 保健事業の実施内容と評価
- 5 計画の見直し
- 6 計画の公表・周知
- 7 事業運営上の留意事項
- 8 個人情報保護

第1節 基本事項

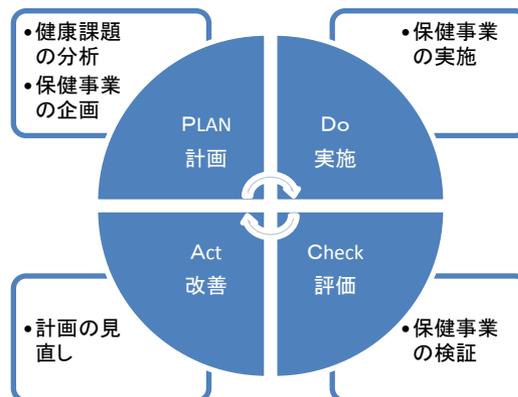
1 背景

- 特定健康診査の実施やレセプト等の電子化の整備がされ、保険者が保有しているデータを活用した効率的・効果的な保健事業の実施が求められている。

2 目的

- 医療・健診・介護情報を活用したデータ分析、健康課題の把握・明確化をする。
- データ分析に基づき、※¹PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施と評価をする。
- 健康格差の縮小・※²健康寿命の延伸を目指す。

【 ※¹PDCAサイクルとは 】



【 ※²健康寿命とは 】

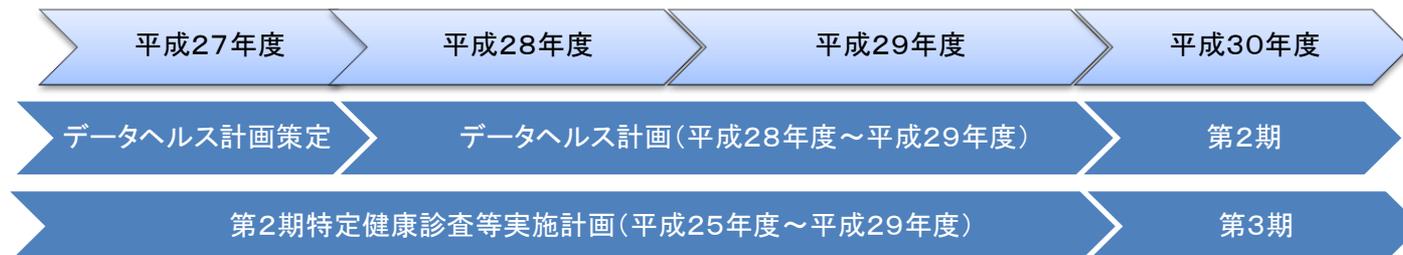
健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間。(介護を必要としない期間)

3計画の位置づけ

	データヘルス計画	第2期特定健康診査等実施計画
法律	国民健康保険法第82条	高齢者の医療の確保に関する法律第19条
指針	平成26年4月 保健事業実施指針の一部改正	平成25年5月 特定健康診査作成の手引き
対象	被保険者全員	40歳から74歳
目標	分析に基づき取り組むべき課題と明確化 目標値の設定	平成29年度に特定健診60% 特定保健指導60%

4 計画期間

- 平成28年度から平成29年度の2年間とします。第2期データヘルス計画は、第3期の「津島市特定健康診査等実施計画」と連携して策定します。

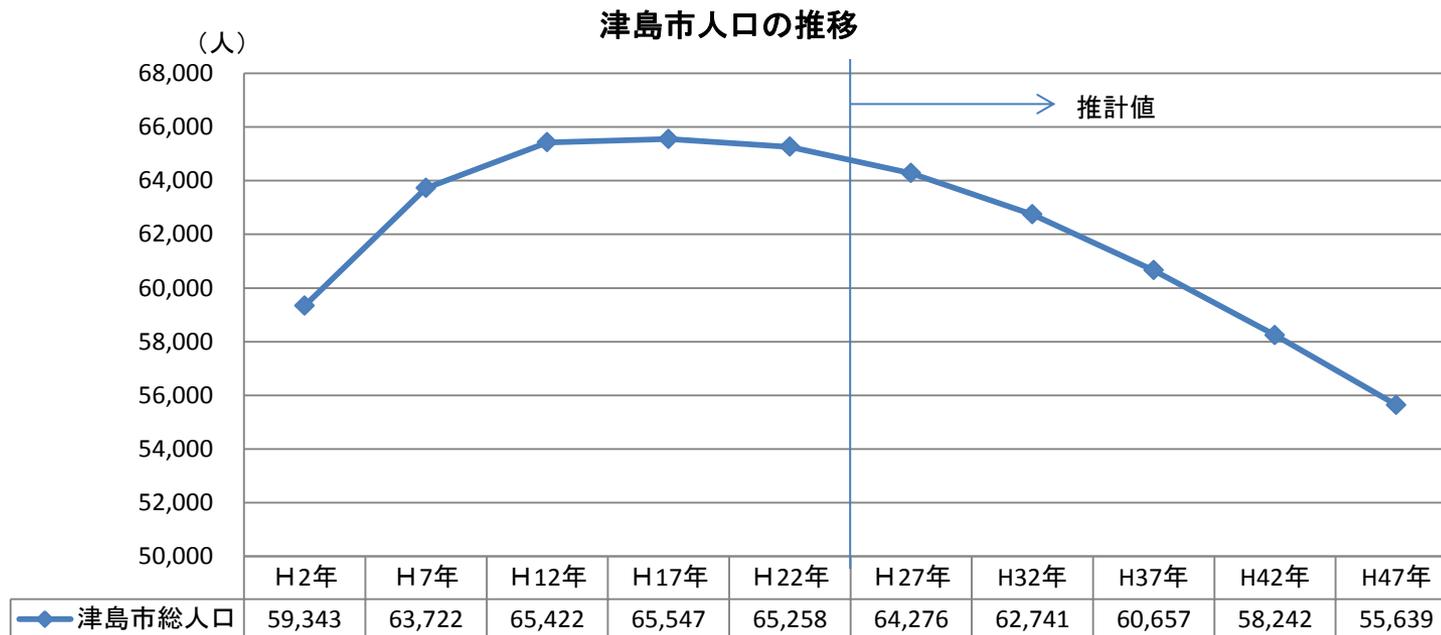


第2節 記載すべき事項

1 地域の特性

(1) 津島市の人口の推移

津島市の人口は、平成17年の65,547人をピークに減少しており、今後も減少傾向が予測される。



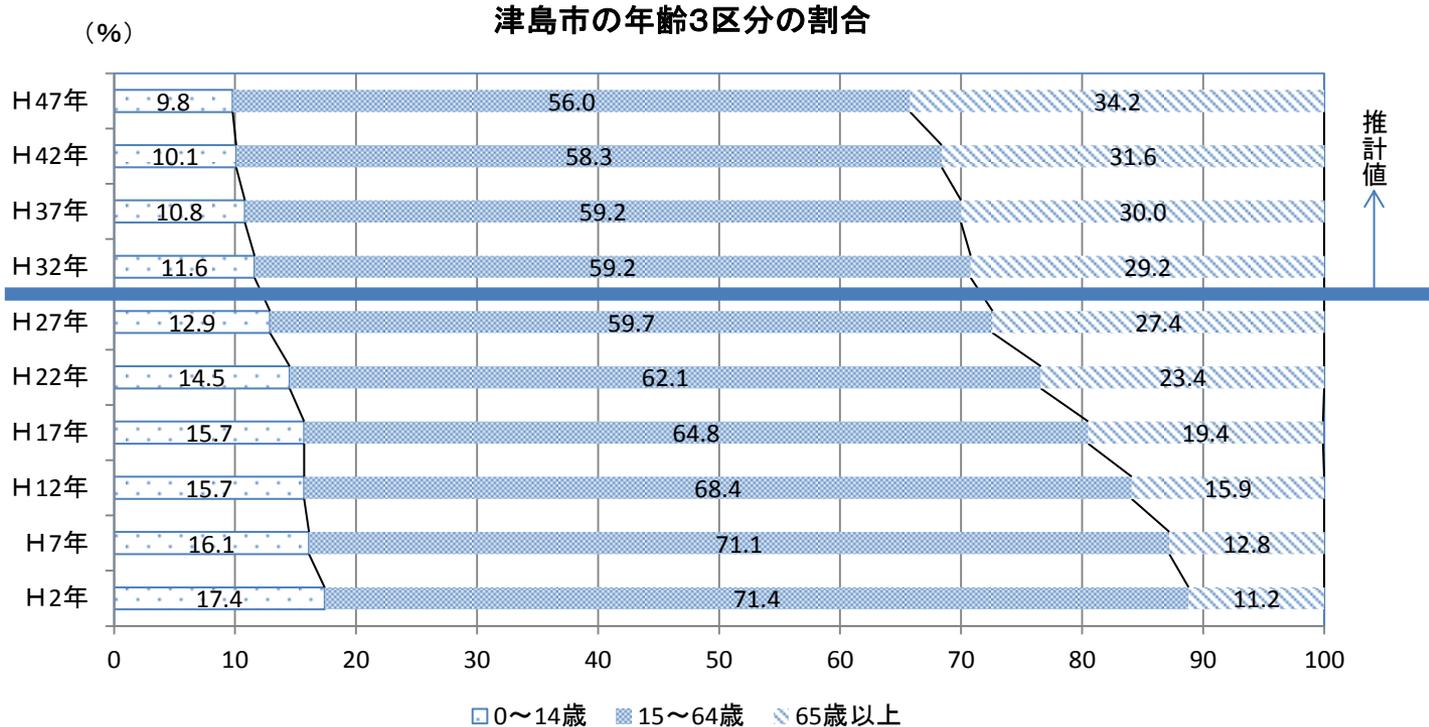
出典： H2年～H22年は、国勢調査による。

H27年以降は推計値で、国立社会保障・人口問題研究所(日本の将来推計人口H25年3月推計)による。

(2) 津島市の年齢3区分の割合

津島市の年齢3区分の割合では、14歳以下(年少人口)と15歳～64歳以下(生産年齢人口)は減少である。

65歳以上(老年人口)は増加傾向で、平成47年には34.2%と3人に1人が65歳以上を占めることが予測される。

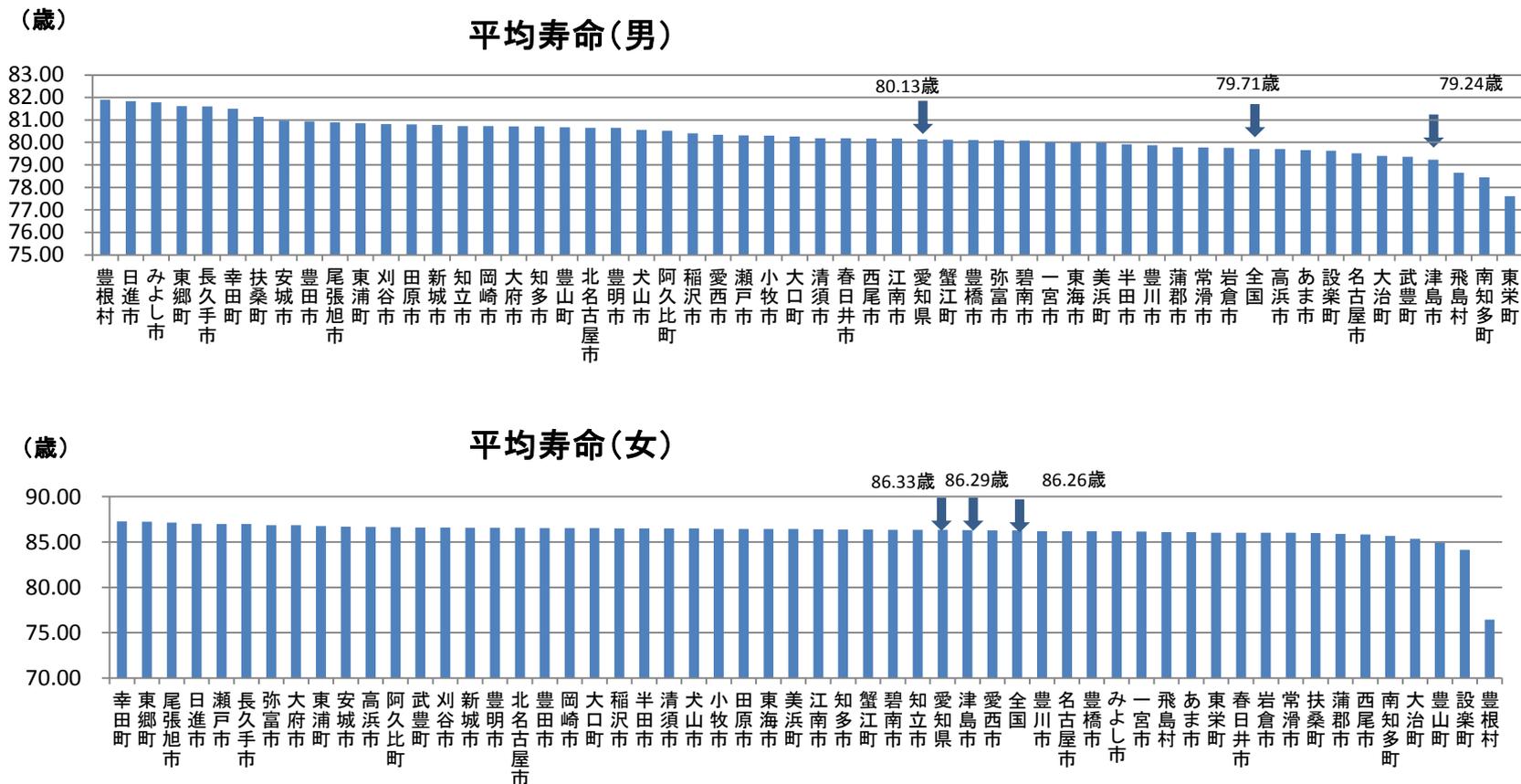


出典：H2年～H22年は、国勢調査による。H27年以降は推計値で、国立社会保障・人口問題研究所による。

(3)津島市の平均寿命(平成21年～平成25年5年間の平均)

男性の平均寿命は、79.24歳で、県内順位は54市町村中51位である。

女性の平均寿命は、86.29歳で、県内順位は54市町村中34位である。



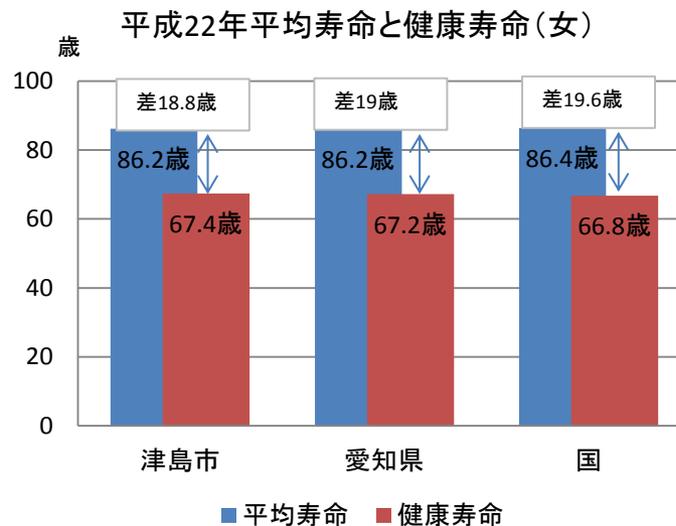
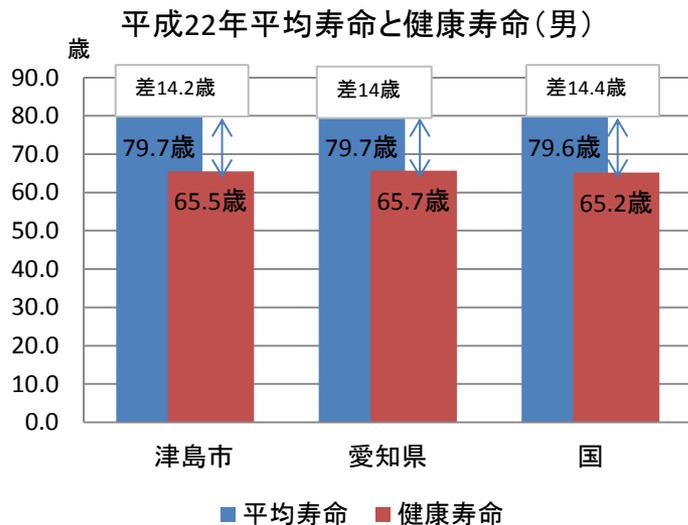
出典:愛知県衛生研究所資料

(4) 平均寿命と健康寿命

男性の平均寿命と健康寿命の差である「不健康な期間」は、14.2歳で、県や国と同等である。

女性の平均寿命と健康寿命の差である「不健康な期間」は、18.8歳で、県や国より短くなっている。

男女で比較すると女性の方が不健康な期間が長くなっている。



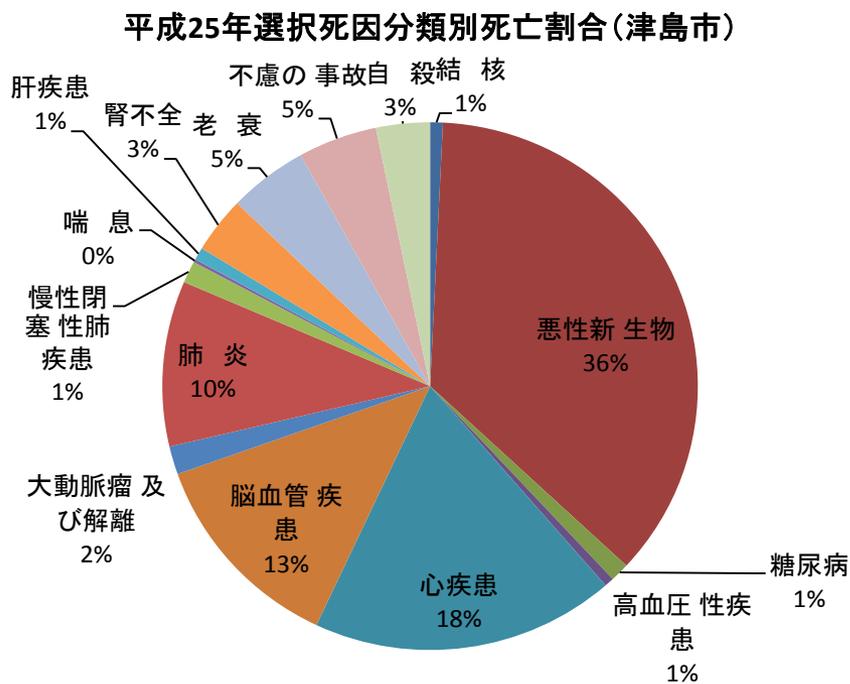
出典:KDB 地域の全体像の把握

「健康寿命」-「平均寿命」=日常生活に制限のある「不健康な期間」とされ、健康寿命を伸ばして「不健康な期間」つまり「日常生活に制限がない期間」を短くすることが言われています。

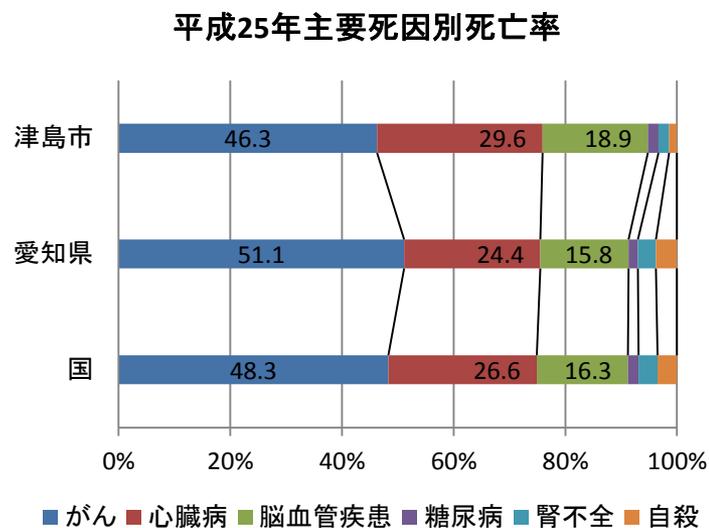
(5) 津島市の死亡

平成25年選択死因分類別死亡割合では、1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患、4位肺炎5位老衰及び不慮の事故の順となっている。

平成25年主要死因別死亡率では、津島市は県や国に比べ心臓病、脳血管疾患の死亡率が高くなっている。



出典: 愛知県衛生年報



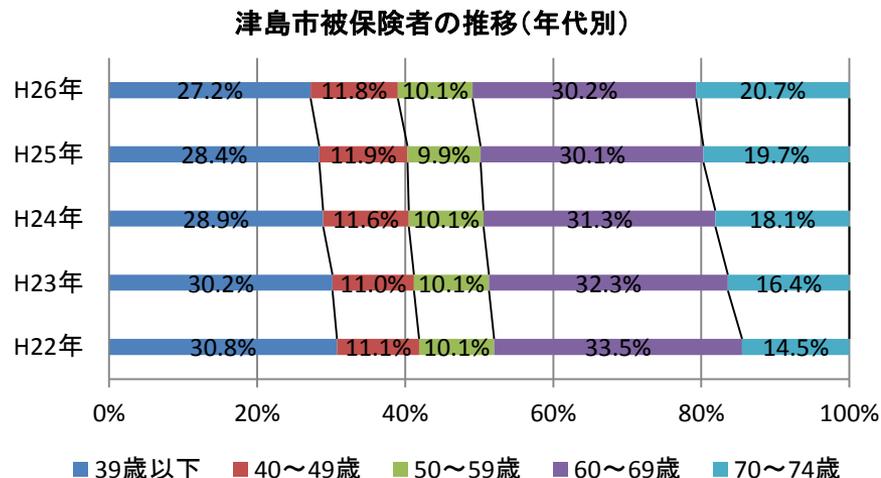
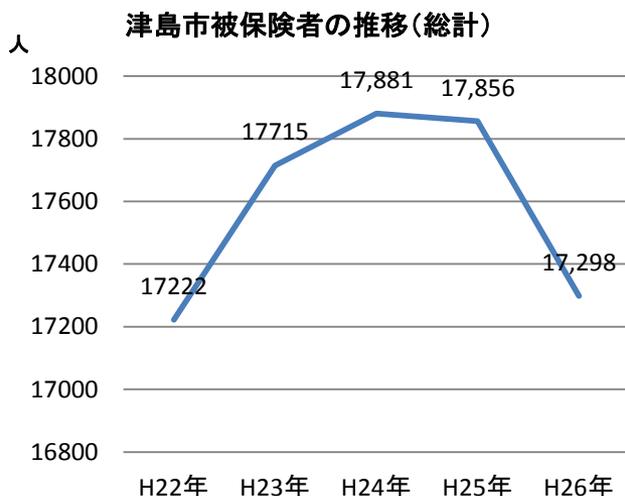
出典: KDB 地域の全体像の把握

(6) 津島市国民健康保険の加入者の状況

津島市被保険者の推移(総計)では、平成24年をピークに減少傾向がみられる。

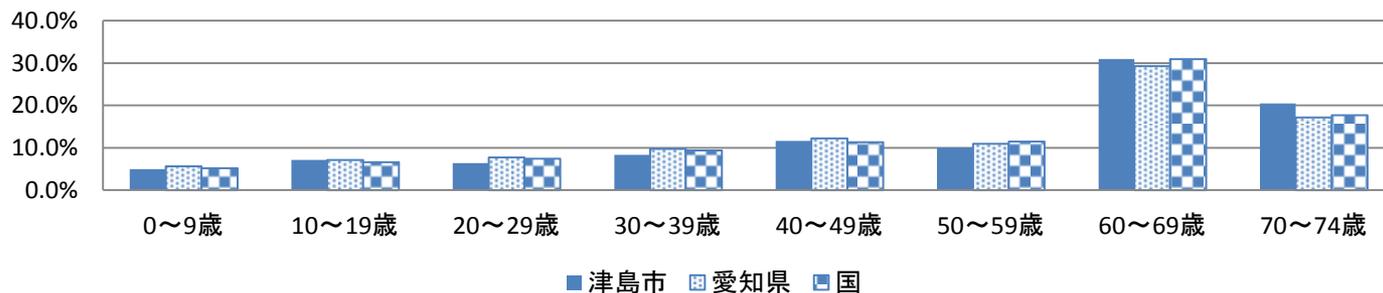
津島市被保険者の推移(年代別)では、70歳以上の増加傾向がみられる。

年齢構成を県や国と比較すると、津島市は0歳～50歳代の割合は低く、60歳代70歳代の割合が高い。



出典：医療費と特定健診等結果分析

平成26年被保険者の年齢構成(県国比較)

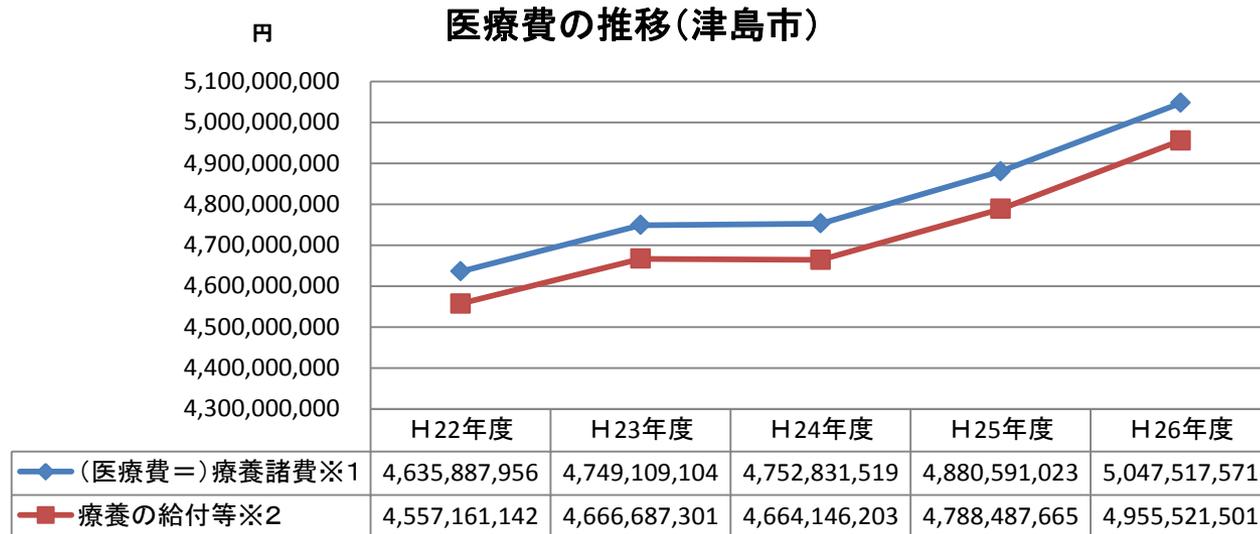


出典：KDB 地域全体像の把握

2 健康・医療情報の分析及び分析結果に基づく健康課題の把握

(1) 津島市の国民健康保険の医療費の年度別推移

医療費は年々増加しており、平成26年度は(医療費＝)療養諸費50億4,751万7,571円、鍼灸、マッサージ等を除いた療養の給付等49億5,552万1,501円となっている。



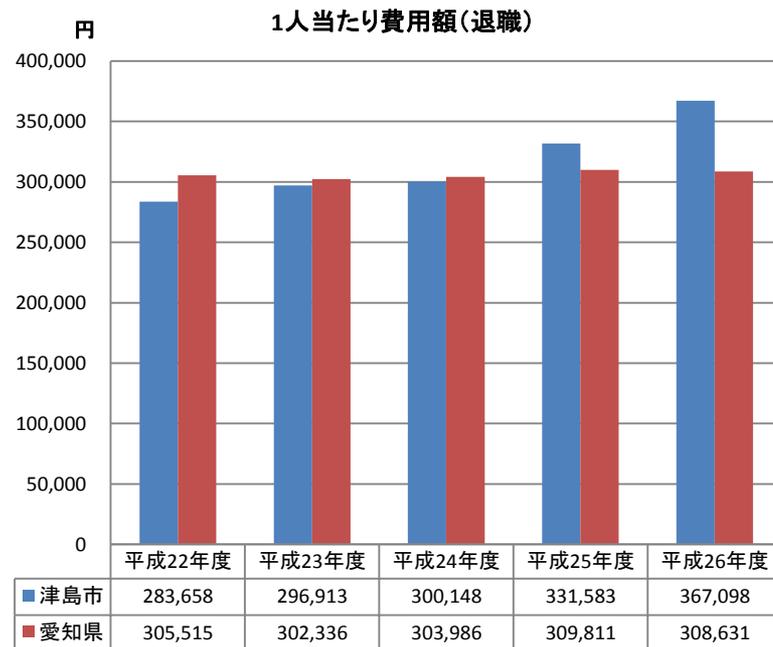
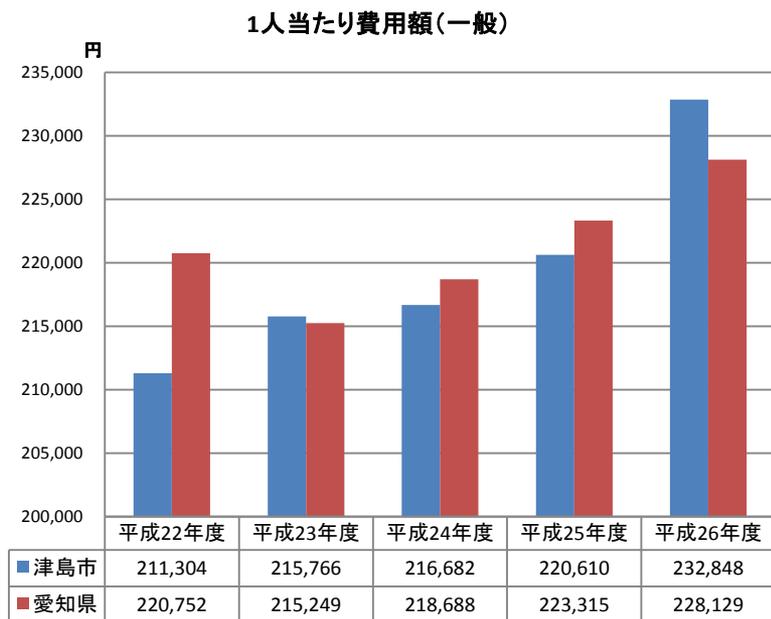
入院	入院外	歯科	調剤	入院時 食事療養 生活療養	訪問看護	診療費(緊急等で被 保険者が一時支払 う、海外療養費など 現金で支給等)	その他 補装具、柔道整 復術、鍼灸、 マッサージ等	移送費
診療費						療養費		
療養の給付						療養費等		
療養の給付等※2						療養費等		
(医療費＝)療養諸費※1								

出典: 国民健康保険事業状況報告書(事業年報)C表

(2) 1人当たり費用額の年度推移

津島市1人当たり費用額(一般)は、平成23年度に県を上回っていたが、平成24・25年度は県より低い金額で推移した。しかし、平成26年度に再び県を上回っている。

津島市1人当たり費用額(退職)は、平成24年度までは県を下回っていたが、平成25・26年度には、県を上回っている。



【試算式】(入院+入院外+歯科)÷被保険者数
1人当たり費用額(一般)の愛知県平均は国保組合を含む

出典:国民健康保険・後期高齢者医療診療報酬等審査支払状況(平成22年度・平成23年度・平成24年度・平成25年度・平成26年度)
各年3月～翌年2月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

(3) 年齢階層別の診療状況

(ア) 1人当たり費用額(一般+退職)

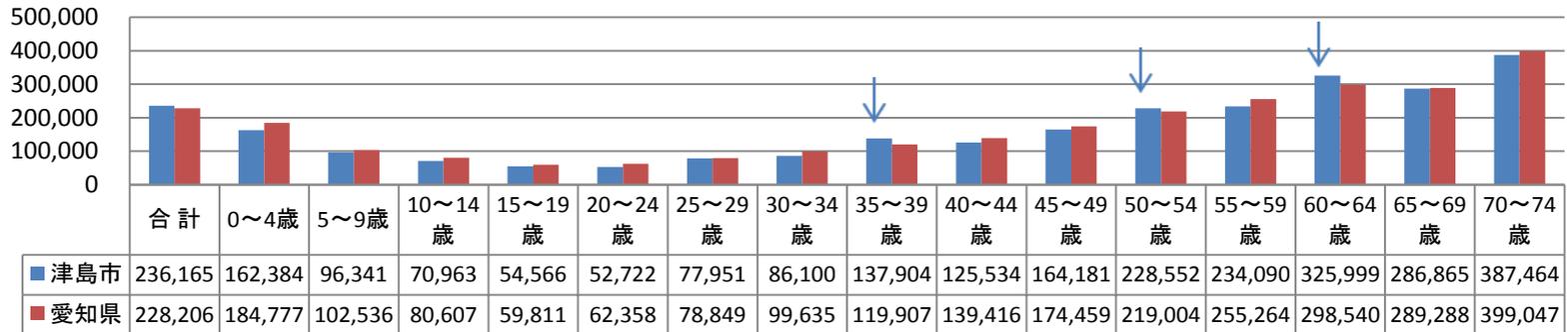
津島市の1人当たり費用額は、合計23万6,165円で県を上回っている。

35歳～39歳、50歳～54歳、60歳～64歳の年齢層で、県よりも上回っている。

入院・入院外・歯科の内訳では、35歳～39歳と50歳～54歳では、入院・入院外とも県より上回っており、60歳～64歳では入院が県より上回っている。

円

平成26年度1人当たり費用額(一般+退職)



合計は、各年齢層の入院+入院外+歯科を合計したもの

年齢階層別	被保険者数 (人)	平成26年度1人当たり費用額(円)				
		入院	入院外	歯科	合計	
35～39歳	津島市	851	56,701	66,609	14,594	137,904
	愛知県	111,963	45,329	57,096	17,482	119,907
50～54歳	津島市	845	103,773	105,987	18,791	228,552
	愛知県	106,901	94,133	102,275	22,596	219,004
60～64歳	津島市	2,062	154,357	147,139	24,503	325,999
	愛知県	244,933	122,062	148,002	28,477	298,540

【試算式】(入院+入院外+歯科)÷被保険者数

出典:平成26年度国民健康保険・後期高齢者医療診療報酬等審査支払状況
平成26年3月～平成27年2月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

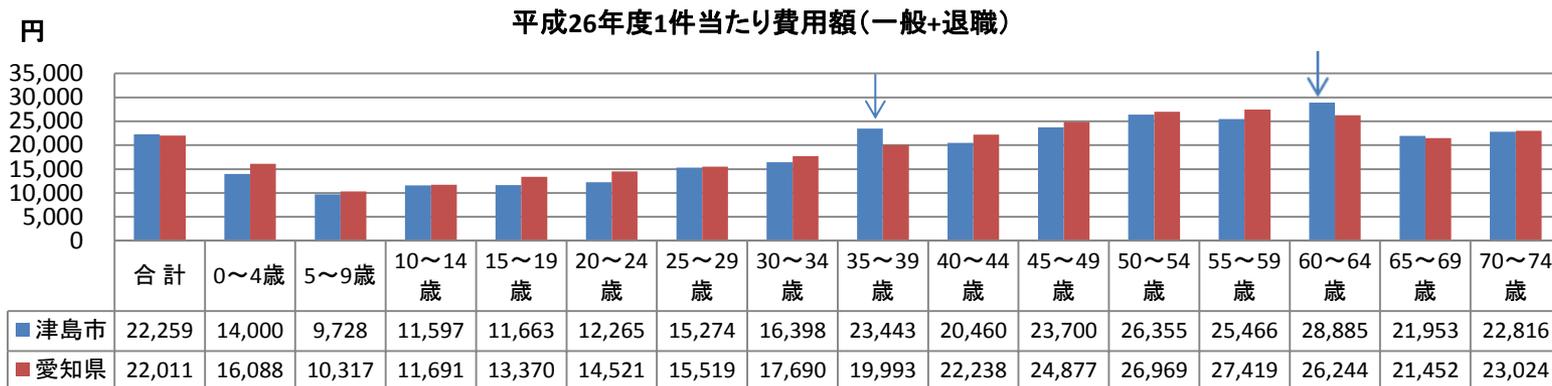
(3) 年齢階層別の診療状況

(イ) 1件当たり費用額(一般+退職)

津島市の1件当たり費用額は、合計2万2,259円で県を上回っている。

35歳～39歳、60歳～64歳の年齢層で、県よりも上回っている。

入院・入院外・歯科の内訳では、35歳～39歳は、入院外が県より上回っており、60歳～64歳では入院・入院外とも県より上回っている。



合計は、各年齢層の入院+入院外+歯科を合計したもの

年齢階層別	被保険者数(人)	平成26年度1件当たり費用額(円)				
		入院	入院外	歯科	合計	
35～39歳	津島市	851	395,510	14,948	11,373	23,443
	愛知県	111,963	410,011	12,571	12,996	19,993
60～64歳	津島市	2,062	581,872	16,415	11,911	28,885
	愛知県	244,933	554,583	16,701	12,414	26,244

【試算式】

1件当たり費用額 = (入院+入院外+歯科) ÷ 件数
(レセプト枚数)

出典: 平成26年度国民健康保険・後期高齢者医療診療報酬等審査支払状況
平成26年3月～平成27年2月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

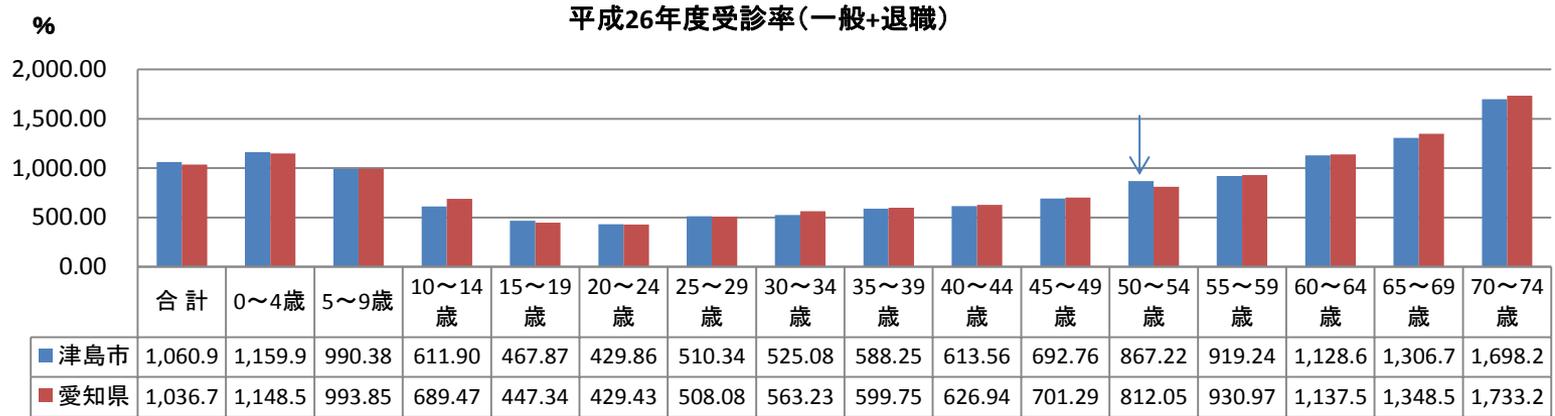
(3) 年齢階層別の診療状況

(ウ) 受診率(一般+退職)

津島市の受診率は、1,060.9%(10.6回)と県を上回っている。

50歳～54歳の年齢層で、県よりも上回っている。

入院・入院外・歯科の内訳では、35歳～39歳は入院が県より上回っており、50歳～54歳、60歳～64歳で、入院・入院外とも県より上回っている。



合計は、各年齢層の入院+入院外+歯科を合計したもの

年齢階層別	被保険者数(人)	平成26年度受診率(%)				
		入院	入院外	歯科	合計	
35～39歳	津島市	851	14.34	445.59	128.32	588.25
	愛知県	111,963	11.06	454.18	134.52	599.75
50～54歳	津島市	845	22.49	681.66	163.08	867.22
	愛知県	106,901	18.89	619.07	174.08	812.05
60～64歳	津島市	2,062	26.53	896.36	205.72	1,128.61
	愛知県	244,933	22.01	886.16	229.39	1,137.57

【試算式】

受診率 = 件数(レセプト枚数) ÷ 被保険者数 × 100
 年間のレセプト件数を被保険者数で割って百分率で表した100人当たりの受診件数。

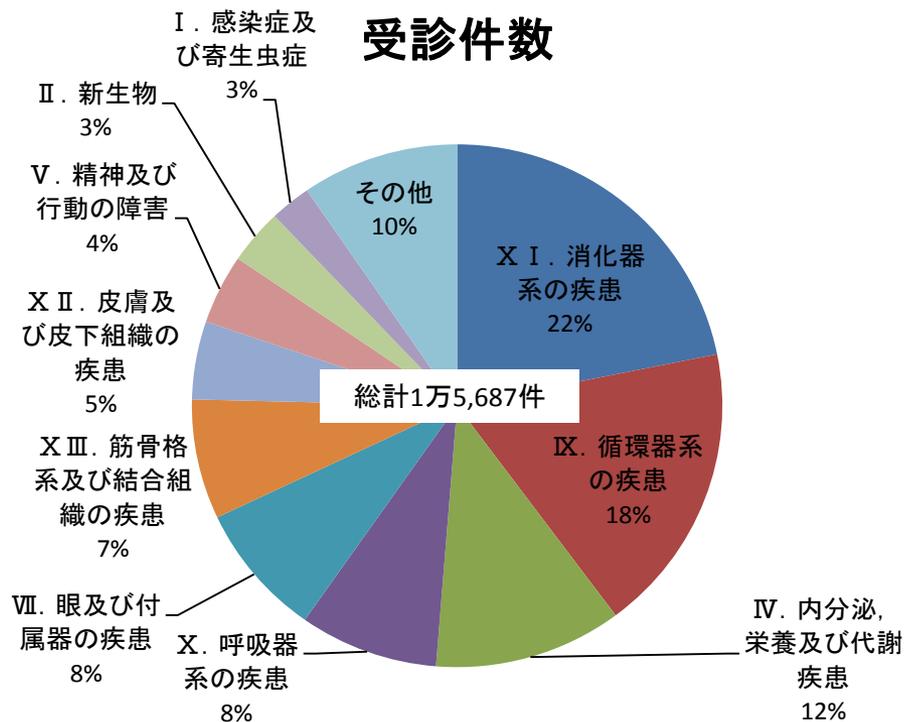
出典: 平成26年度国民健康保険・後期高齢者医療診療報酬等審査支払状況
 平成26年3月～平成27年2月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

(4)津島市の疾病分類別の構成割合の状況 —平成26年5月診療分—

(ア)大分類による受診件数

受診件数は、1か月間の総計が1万5,687件であり、消化器系が最も多く、次いで循環器系、内分泌・栄養及び代謝疾患となっている。

順位	大分類	受診件数 (件)
1	X I . 消化器系の疾患	3,426
2	IX . 循環器系の疾患	2,818
3	IV . 内分泌, 栄養及び代謝疾患	1,799
4	X . 呼吸器系の疾患	1,327
5	VII . 眼及び付属器の疾患	1,294
6	X III . 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,162
7	X II . 皮膚及び皮下組織の疾患	757
8	V . 精神及び行動の障害	676
9	II . 新生物	533
10	I . 感染症及び寄生虫症	392
	その他	1503
	1か月間の総計	15,687



出典:愛知県国保連合会提供の共同電算関係 疾病分類関係帳票
平成26年5月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

(4)津島市の疾病分類別の構成割合の状況 —平成26年5月診療分—

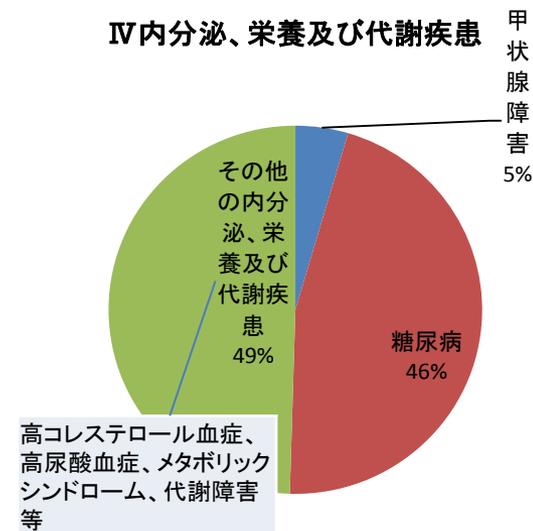
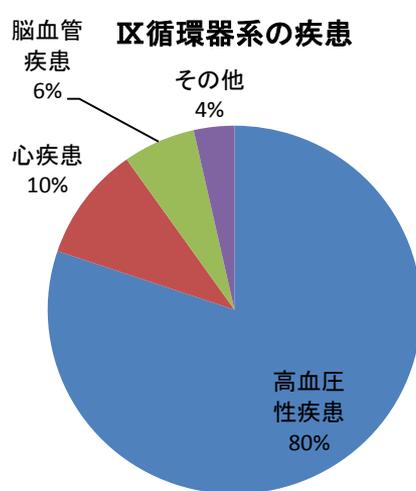
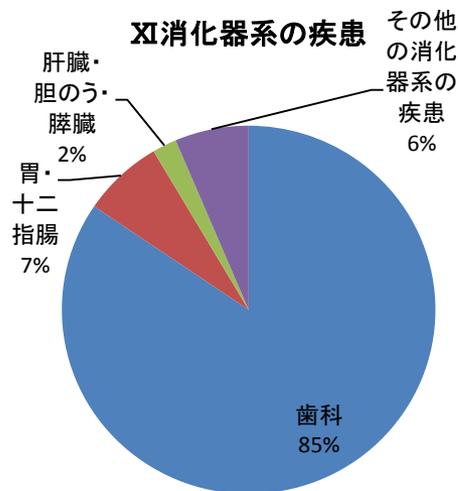
(イ)大分類による受診件数の上位3疾患の内訳

消化器系の疾患の85%を歯科が占めている。

循環器系の疾患では、高血圧性疾患が最も多く、次いで心疾患、脳血管疾患となっている。

内分泌、栄養及び代謝疾患では、糖尿病が46%を占めている。

順位	大分類	受診件数(件)
1	XI消化器系の疾患	3,426
2	IX循環器系の疾患	2,818
3	IV内分泌、栄養及び代謝疾患	1,799



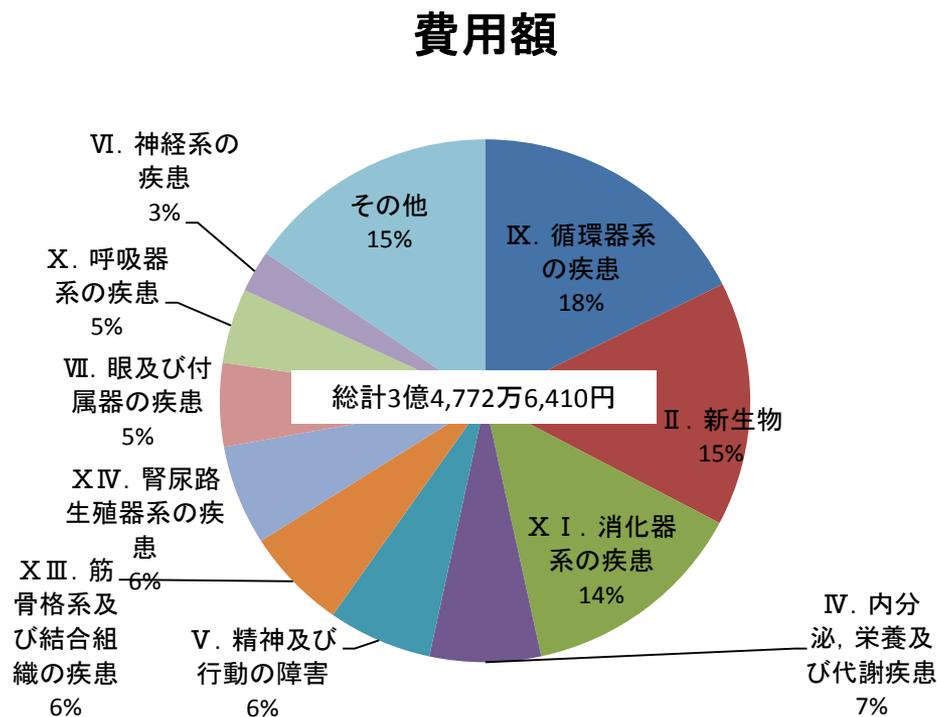
出典: 愛知県国保連合会提供の共同電算関係 疾病分類関係帳票
平成26年5月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

(4)津島市の疾病分類別の構成割合の状況 ー平成26年5月診療分ー

(ウ)大分類による費用額

1か月間の費用額の総額は、3億4,772万6,410円であり、循環器系が最も高く、次いで新生物、消化器系の疾患となっている。

順位	大分類	費用額(円)
1	IX. 循環器系の疾患	61,345,400
2	II. 新生物	52,497,800
3	X I. 消化器系の疾患	48,194,260
4	IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	23,537,860
5	V. 精神及び行動の障害	22,108,260
6	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	21,808,050
7	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	21,451,880
8	VII. 眼及び付属器の疾患	17,990,950
9	X. 呼吸器系の疾患	16,054,650
10	VI. 神経系の疾患	9,012,670
	その他	53,724,630
	1か月間の総額	347,726,410



出典:愛知県国保連合会提供の共同電算関係 疾病分類関係帳票
平成26年5月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

(4)津島市の疾病分類別の構成割合の状況 —平成26年5月診療分—

(エ)大分類による費用額の上位3疾病の内訳

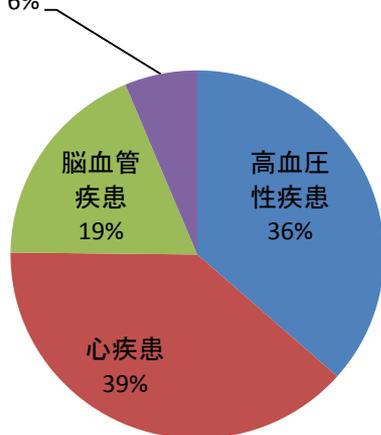
循環器系の疾患では、高血圧性疾患が最も高く、次いで心疾患、脳血管疾患となっており、受診件数と同じ傾向になっている。

悪性新生物では、肺がんが最も高く、次いで大腸、乳房、胃、悪性リンパ腫となっている。

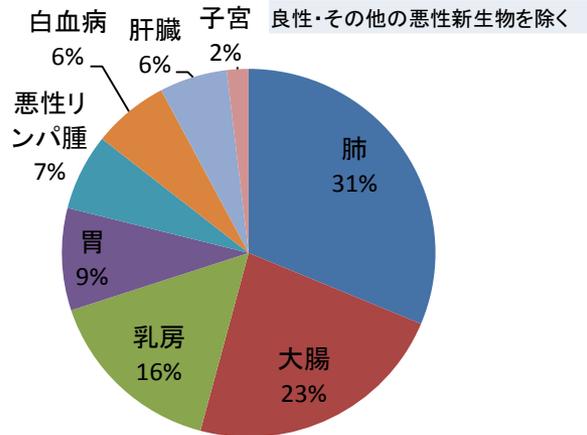
消化器系の疾患では、2,353万7,860円のうち歯科が71%を占めている。

順位	大分類	費用額(円)
1	Ⅹ循環器系の疾患	361,345,400
2	Ⅱ悪性新生物	252,497,800
3	Ⅺ消化器系の疾患	23,537,860

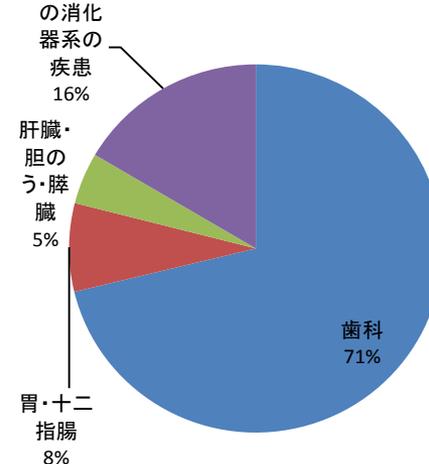
Ⅹ循環器系の疾患



Ⅱ悪性新生物



Ⅺ消化器系の疾患



出典:愛知県国保連合会提供の共同電算関係 疾病分類関係帳票
平成26年5月診療分の診療費(入院・入院外・歯科)で算出

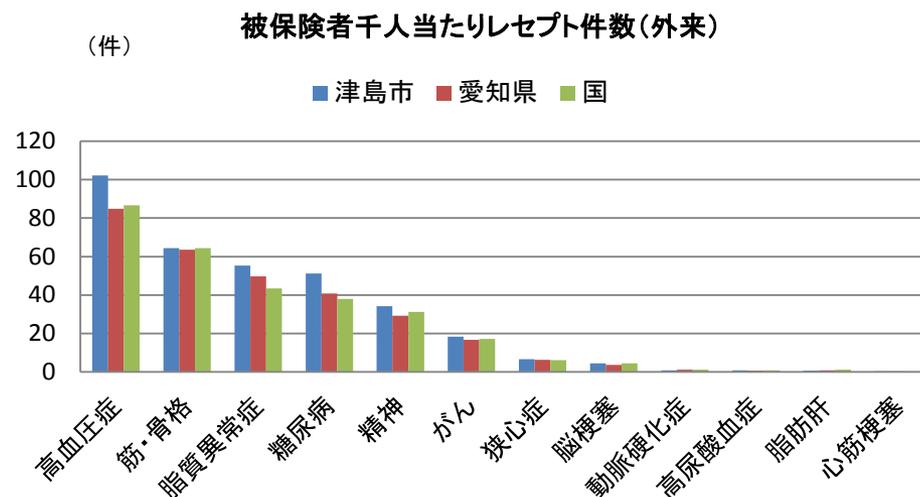
(5) 生活習慣病の医療状況 — 平成25年度累計(平成25年6月～平成26年5月)—

(ア) 被保険者千人当たりレセプト件数(外来)

被保険者千人当たりのレセプト件数(外来)では、多い順位に高血圧、筋・骨格、脂質異常症、糖尿病、精神と続いている。

高血圧、脂質異常症、糖尿病、脳梗塞、高尿酸血症は、県または国と比べ1.2倍高くなっている。

外来	津島市(件)	愛知県(件)	国 (件)
高血圧症	102.103	84.919	86.654
筋・骨格	64.309	63.538	64.369
脂質異常症	55.251	49.738	43.44
糖尿病	51.118	40.800	37.923
精神	34.129	29.194	31.274
がん	18.373	16.668	17.197
狭心症	6.671	6.309	6.101
脳梗塞	4.506	3.698	4.513
動脈硬化症	0.929	1.246	1.243
高尿酸血症	0.915	0.735	0.809
脂肪肝	0.667	0.823	1.169
心筋梗塞	0.354	0.353	0.296
脳出血	0.161	0.213	0.24



出典:KDB 疾病別医療費分析(生活習慣病)

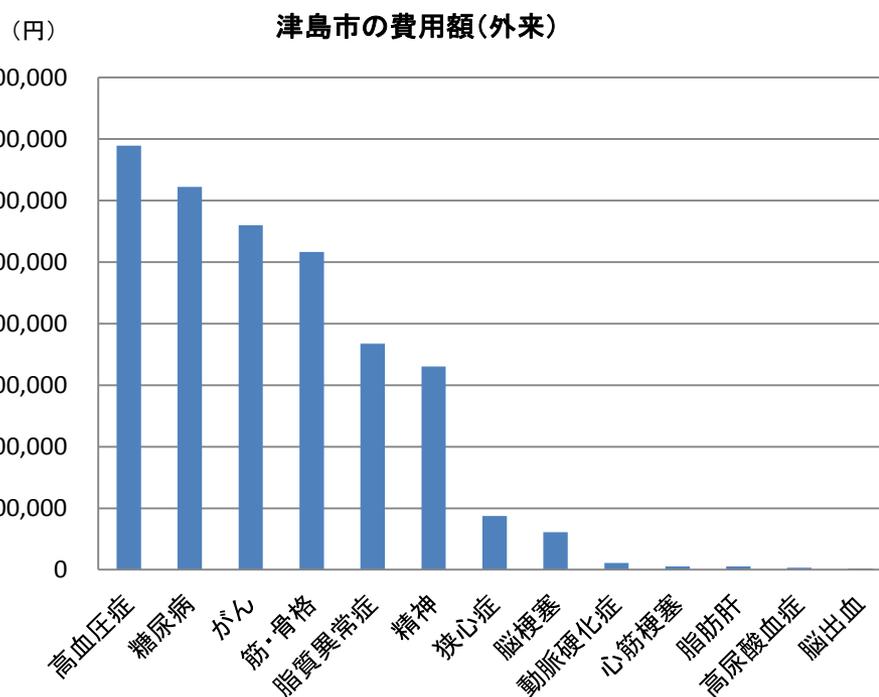
県または国と比べ1.2倍の場合は、緑で表示。比較先を__で記載。

(5)生活習慣病の状況 — 平成25年度累計(平成25年6月～平成26年5月)—

(イ)津島市の費用額(外来)

- 費用額(外来)は、多い順位に高血圧、糖尿病、がん、筋・骨格、脂質異常症と続いている。
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、狭心症、脳梗塞、心筋梗塞は、国と比べ1.2倍高くなっている。

外来	津島市の費用額(円)
高血圧症	344,594,440
糖尿病	311,056,360
がん	279,995,810
筋・骨格	258,341,440
脂質異常症	183,636,610
精神	165,204,580
狭心症	43,814,960
脳梗塞	30,487,880
動脈硬化症	5,494,100
心筋梗塞	2,634,190
脂肪肝	2,607,200
高尿酸血症	1,676,370
脳出血	1,008,000
総計	1,630,551,940



出典:KDB 疾病別医療費分析(生活習慣病)

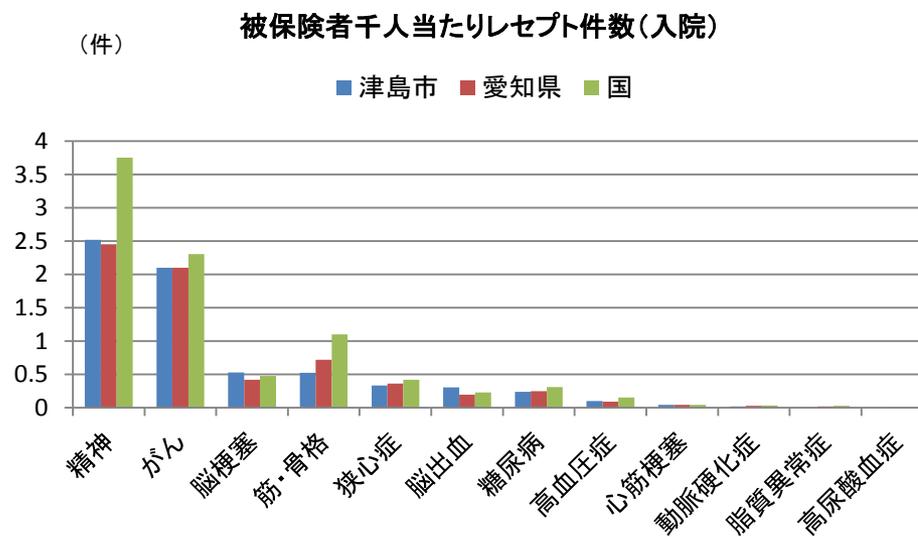
国と比べ1.2倍の場合は、緑で表示。

(5) 生活習慣病の状況 — 平成26年度累計(平成25年6月～平成26年5月)—

(ウ) 被保険者千人当たりレセプト件数(入院)

被保険者千人当たりレセプト件数(入院)では、多い順位精神、がん、脳梗塞、筋・骨格、狭心症と続いている。脳梗塞、脳出血は、県または国と比べ1.2倍高くなっている。

入院	津島市(件)	愛知県(件)	国(件)
精神	2.52	2.454	3.752
がん	2.097	2.099	2.302
脳梗塞	0.529	0.418	0.474
筋・骨格	0.524	0.72	1.097
狭心症	0.331	0.363	0.416
脳出血	0.303	0.195	0.225
糖尿病	0.239	0.245	0.307
高血圧症	0.101	0.091	0.151
心筋梗塞	0.041	0.042	0.041
動脈硬化症	0.018	0.027	0.031
脂質異常症	0.005	0.02	0.026
高尿酸血症	0	0.001	0.002
脂肪肝	0	0.004	0.011



出典:KDB 疾病別医療費分析(生活習慣病)

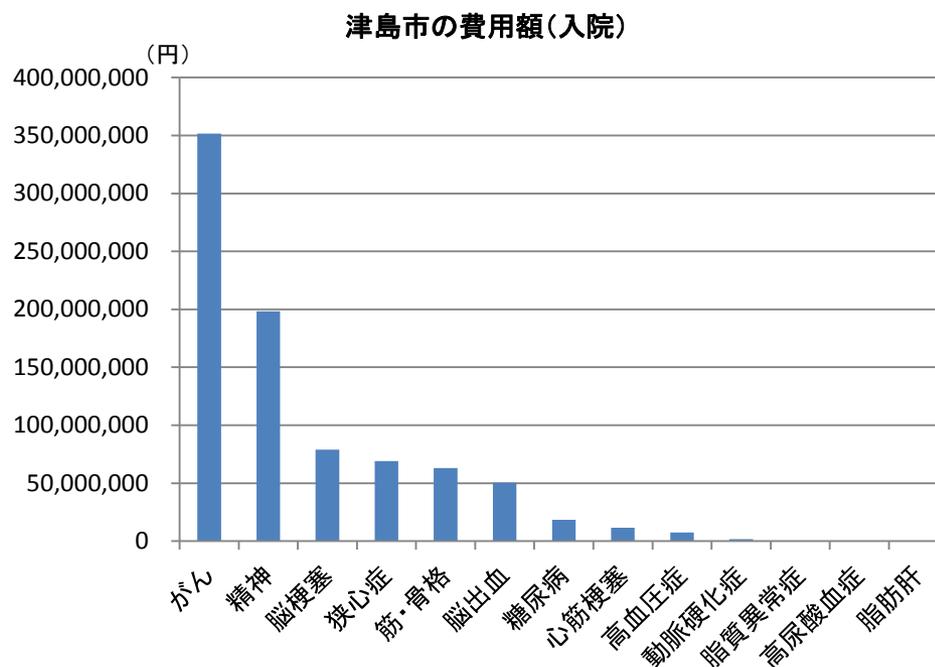
県または国と比べ1.2倍の場合は、緑で表示。比較先を__で記載。

(5)生活習慣病の状況 — 平成26年度累計(平成25年6月～平成26年5月)—

(エ)津島市の費用額(入院)

費用額(入院)は、多い順位にがん、精神、脳梗塞、狭心症、筋・骨格、脳出血と続いている。
脳梗塞、脳出血は、国と比べ1.2倍高くなっている。

入院	津島市の費用額(円)
がん	351,733,550
精神	198,206,280
脳梗塞	78,857,870
狭心症	68,992,910
筋・骨格	62,952,550
脳出血	50,588,070
糖尿病	18,417,710
心筋梗塞	11,699,650
高血圧症	7,565,490
動脈硬化症	1,859,640
脂質異常症	46,550
高尿酸血症	0
脂肪肝	0
総計	850,920,270



出典:KDB 疾病別医療費分析(生活習慣病)

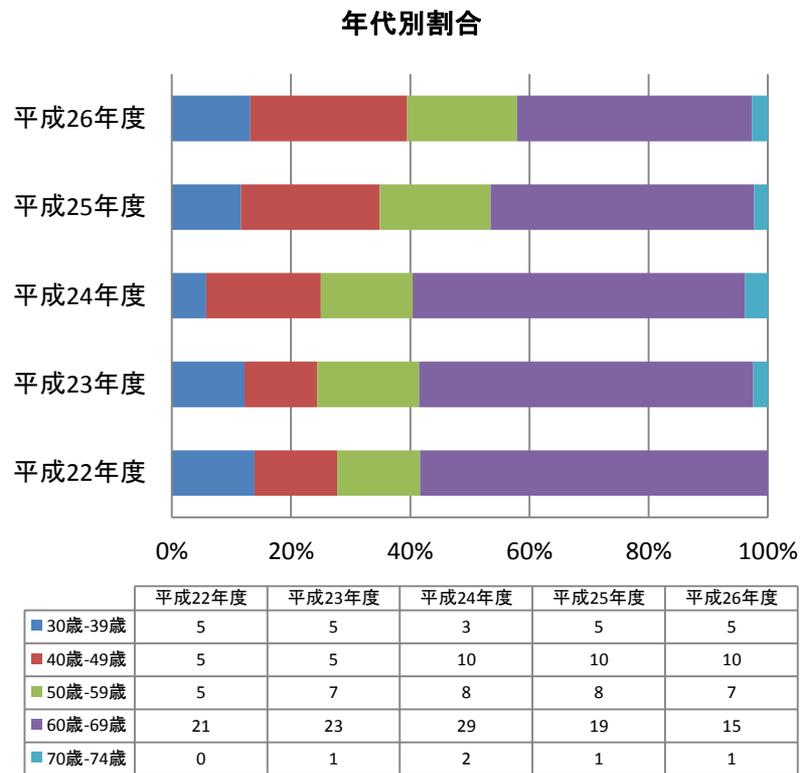
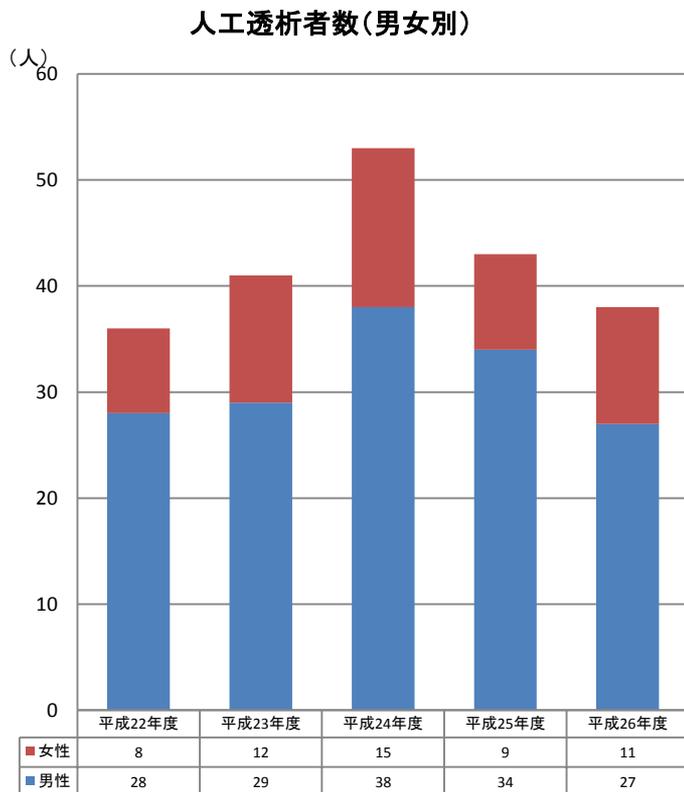
国と比べ1.2倍の場合は、緑で表示。

(6)人工透析者の状況

(ア)人工透析の実施者数

男性は、女性の約2倍から3倍強の人数である。

年代別割合では、60歳代が最も多い。また、60歳未満の占める割合が、平成25年度26年度と増加傾向にある。



出典：津島市国民健康保険特定疾病療養受療証の交付者
(認定疾病名：人工透析を行う慢性腎不全で交付)

【70歳-74歳が減少している理由】

65歳～74歳までの一定の障がい(身体障がい者手帳保有等)がある場合は、後期高齢者医療制度を受けられるため。

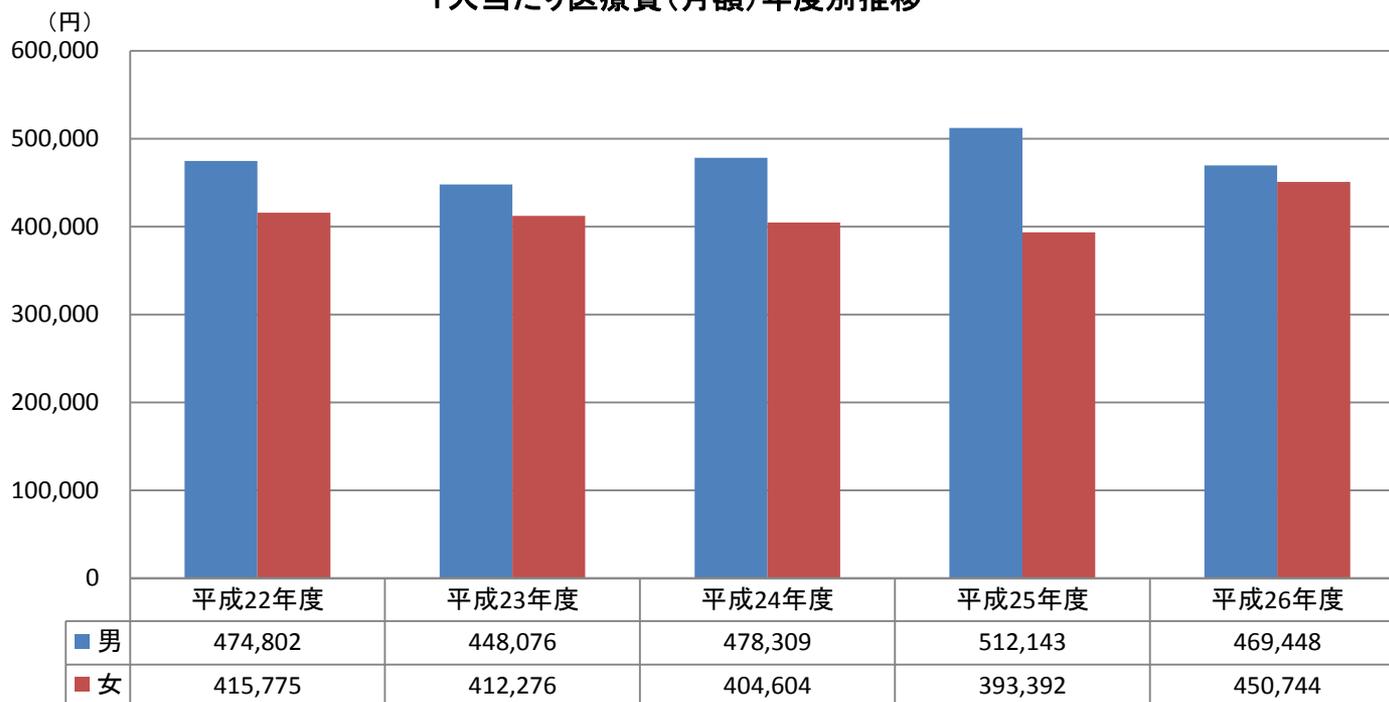
(6) 人工透析者の状況

(イ) 人工透析実施者の1人当たり医療費(月額)

1人当たり医療費(月額)は、男性は平成25年度に51万2,143円、女性は平成26年度45万744円が最も高くなっている。

男性と女性を比較すると、男性の方が費用額が高い傾向にある。

1人当たり医療費(月額)年度別推移



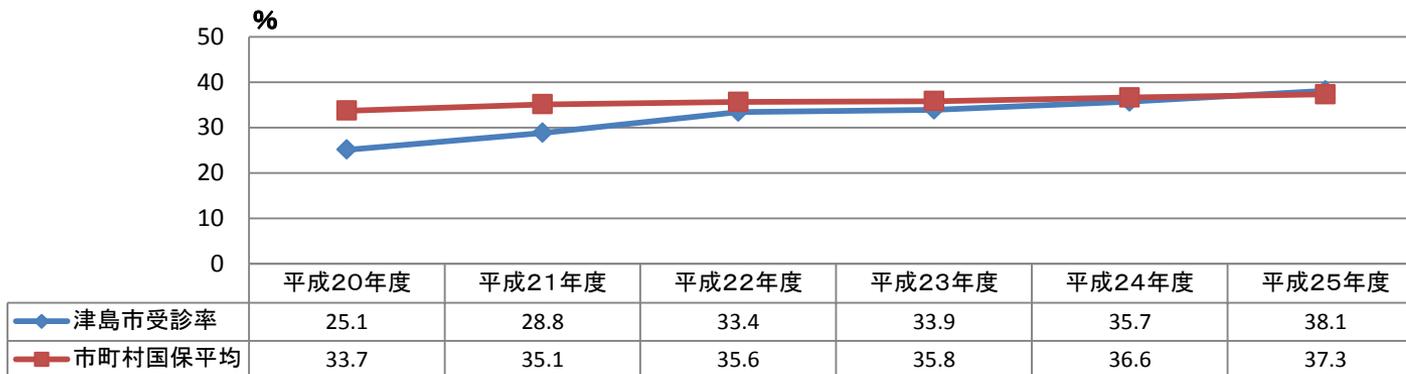
出典：AICube「医療費と特定健康診査等結果分析」

(7) 特定健康診査・特定保健指導の状況

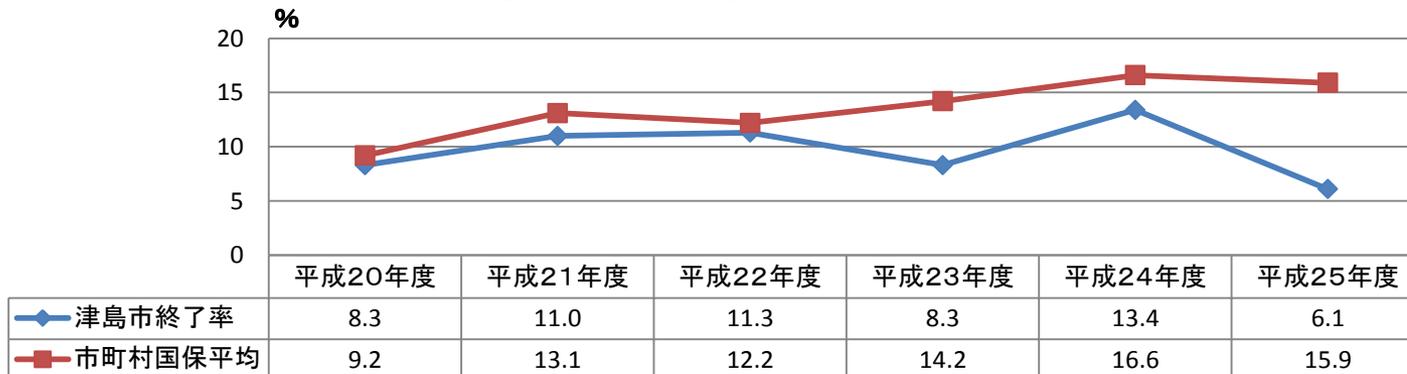
(ア) 特定健康診査の受診状況の推移

特定健康診査の受診率は、増加傾向であり平成25年度は、市町村国保平均を上回っている。
 特定保健指導の終了率は、市町村国保の平均より低い。

津島市特定健康診査受診率の推移



津島市特定保健指導終了率の推移



出典：法定報告値(年度中に異動・除外のない者を集計)

(8) 重複・頻回受診の状況 —平成26年5月診療分から平成26年12月診療分—

(ア) 受診者と費用額

重複受診1か月あたりの平均は、受診者16人、総費用額523万2,843円、1人当たり1か月平均費用額34万5,520円である。

頻回受診1か月あたりの平均は、受診者51人、総費用額581万8,299円、1人当たり1か月平均費用額11万1,772円である。

診療月	重複受診			頻回受診		
	受診者数(人)	総費用額(円)	1人当たり費用額(円)	受診者数(人)	総費用額(円)	1人当たり費用額(円)
5月	13	2,866,500	220,500	41	3,622,380	88,351
6月	9	4,520,820	502,313	57	5,957,430	104,516
7月	16	5,254,870	328,429	62	7,117,310	114,795
8月	16	7,035,640	439,728	44	5,209,550	118,399
9月	19	4,292,800	225,937	53	5,903,440	111,386
10月	16	6,480,230	405,014	68	8,447,740	124,231
11月	19	7,194,820	378,675	33	3,128,710	94,809
12月	16	4,217,060	263,566	52	7,159,830	137,689
総計	124	41,862,740	2,764,162	410	4,654,390	894,177
平均	16	5,232,843	345,520	51	5,818,299	111,772

重複受診 同一の疾病及び負傷により4以上の医療機関で診療を受けている。

頻回受診 一月に15日以上複数の医療機関で診療(入院を除く)を受けている。

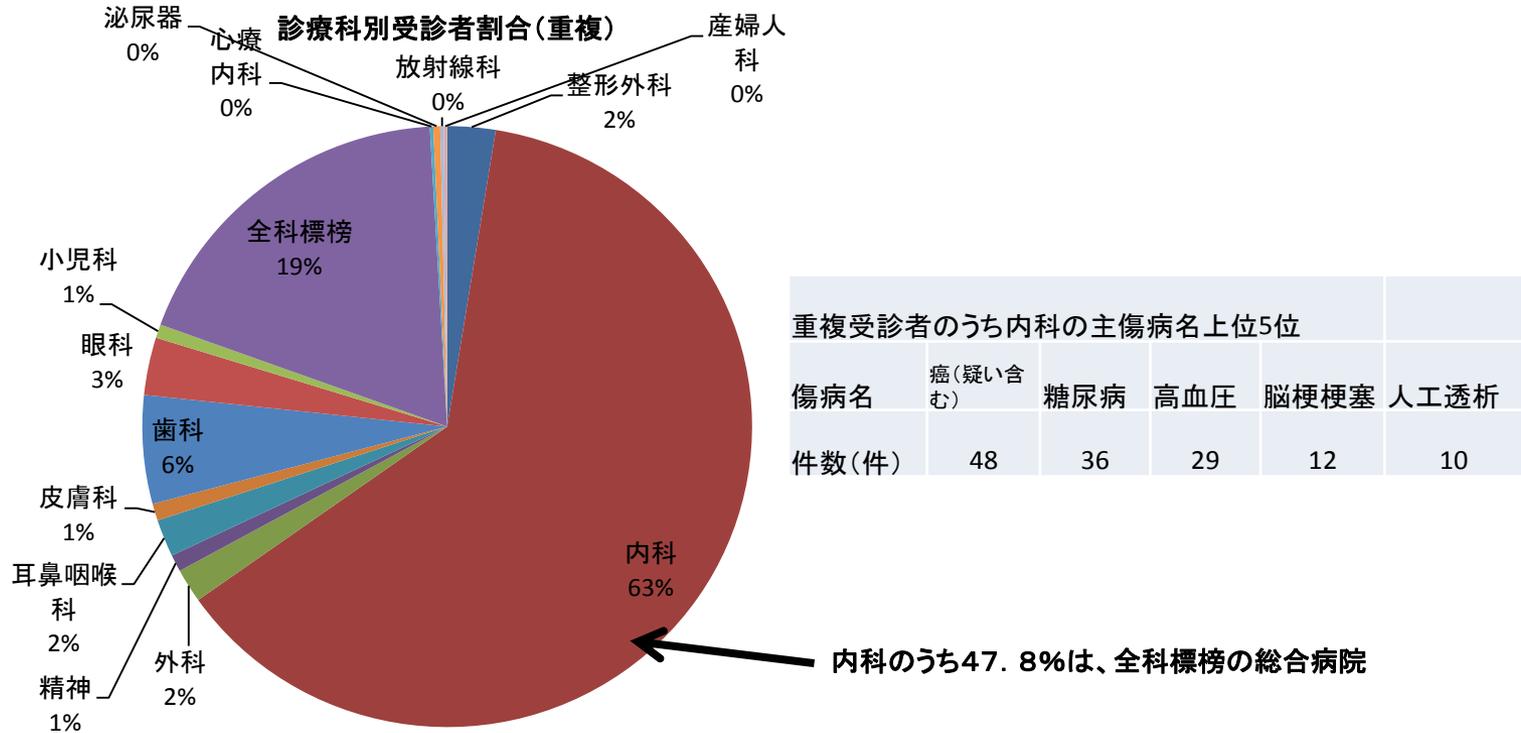
出典: 愛知県国保連合会提供の共同電算関係 重複多受診者情報
「国民健康保険重複多受診者一覧表」

(8) 重複・頻回受診の状況 —平成26年5月～平成26年12月診療分—

(ア) 診療科別受診者割合(重複)

内科受診者が63%を占める。次いで全科標榜の総合病院の受診が19%を占めている。

内科受診者の傷病名上位5位は、癌が最も多く、糖尿病、高血圧、脳梗塞、人工透析となっている。



出典: 愛知県国保連合会提供の共同電算関係 重複多受診者情報

【重複受診とは、同一の疾病及び負傷により4以上の医療機関で診療を受けている場合とする。】

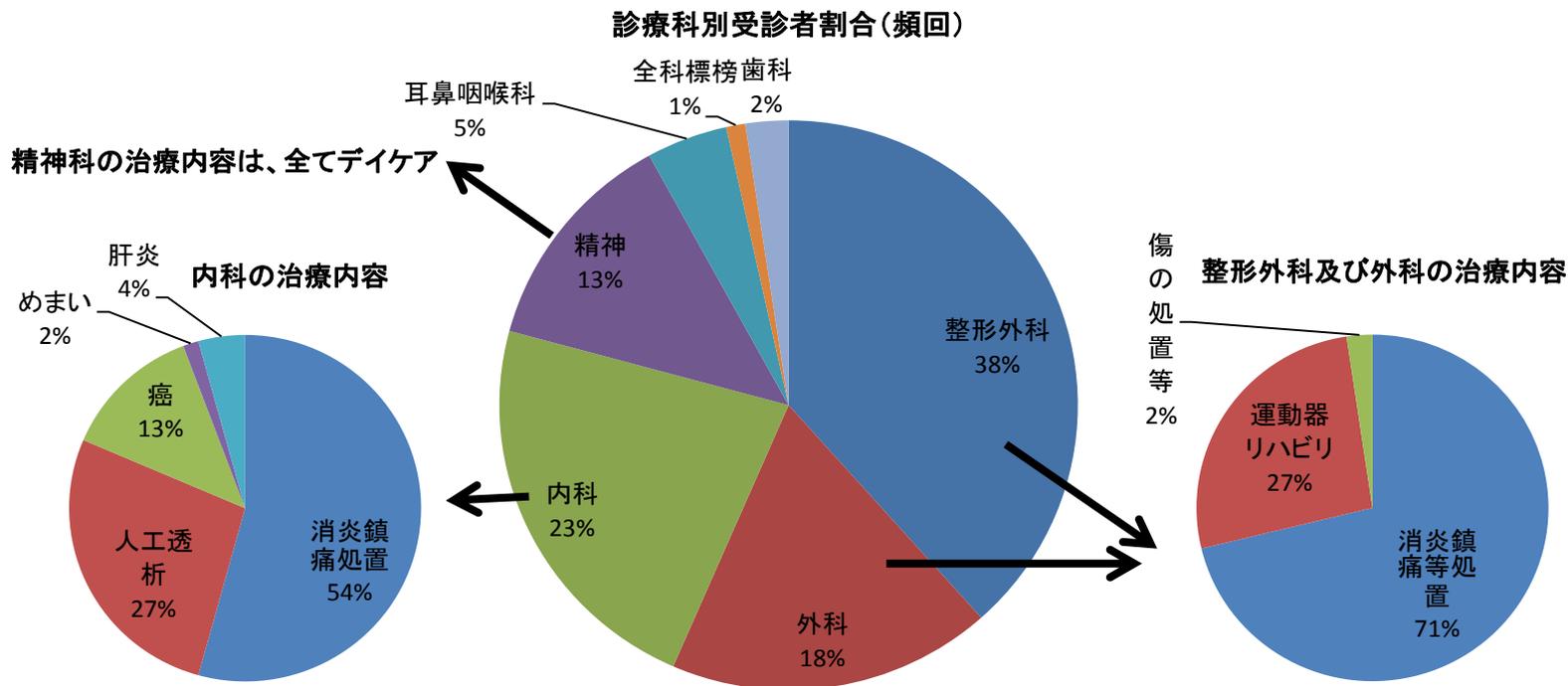
(8)重複・頻回受診の状況 —平成26年5月～平成26年12月診療分—

(イ)診療科別受診者割合(頻回)

整形外科受診者がもっとも多く38%、次いで外科18%、内科23%、精神科13%の順で占めている。

整形外科及び外科の治療内容は、消炎鎮痛処置、運動器リハビリを98%を占め、リハビリ目的で毎日通院をしている。

内科受診者の治療内容は、消炎鎮痛処置が54%と約半数を占めており、内科で整形外科等で行うリハビリで毎日通っている状況である。次いで人工透析、癌の痛み止め等治療13%となっている。



出典:愛知県国保連合会提供の共同電算関係 重複多受診者情報

【頻回受診とは、ひと月に15日以上、複数の医療機関で診療(入院を除く)を受けている場合とする。】

(9)ジェネリック医薬品(後発医薬品)の利用促進事業

(ア)ジェネリック希望カードの配布

時期	形態	配布方法
平成24年8月 ～	希望カード	・一斉更新時(H24年8月)に加入者全員に配布。 ・加入手続き時に窓口で配布。
平成25年11月 ～	希望シール	・一斉更新時(H26年8月)に加入者全員に配布。 ・加入手続き時に窓口で配布。

(イ)ジェネリック利用差額通知書の送付

平成25年度から年に2回(5月・11月)発送。

		発送日	発送枚数(枚)	調剤レセプト月	発送内容の基準
平成25年度	1回目	平成25年12月2日	251	平成25年9月	40歳以上の※1生活習慣病受診者。 一つの薬剤で削減効果額400円以上。
平成26年度	1回目	平成26年5月30日	979	平成26年3月	全年齢の生活習慣病受診者。 一つの薬剤で削減効果額200円以上。
	2回目	平成26年11月28日	711	平成26年9月	全年齢の生活習慣病受診者。 一つの薬剤で削減効果300円以上。
平成27年度	1回目	平成27年5月27日	880	平成27年3月	全年齢の生活習慣病受診者。 一つの薬剤で削減効果額200円以上。

※1 生活習慣病受診者とは、循環器官用薬、呼吸器官用薬、消化器官用薬、外皮用薬、血液代用剤、肝臓疾患用剤、糖尿病用剤、代謝性医薬品の処方薬をされている者。

(ウ)効果分析結果

—差額通知発送者のジェネリック医薬品切り替え状況（平成25年12月2日発送分）—

【国保分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成25年10月の3人から平成26年2月には27人と増えている。また、削減効果累計額は、25万1,250円となっている。

【退職分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成25年10月から平成25年12月は0人、平成26年1月に2人、平成26年2月に1人となっている。削減累計額は、5,600円となっている。

【国保分】	通知出力月	効果分析月				
	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月
通知発送人数	227人	124人	157人	146人	148人	119人
ジェネリック医薬品切り替え人数 (割合)	—	3人 (2.4%)	9人 (5.7%)	22人 (15.1%)	22人 (14.9%)	27人 (22.7%)
軽減効果額	—	6,300円	23,380円	80,930円	57,230円	83,410円
削減効果額累計	—	6,300円	29,680円	110,610円	167,840円	251,250円

【退職分】	通知出力月	効果分析月				
	平成25年9月	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月
通知発送人数	24人	10人	16人	8人	17人	9人
ジェネリック医薬品切り替え人数 (割合)	—	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (11.8%)	1人 (11.1%)
軽減効果額	—	0円	0円	0円	3,640円	1,960円
削減効果額累計	—	0円	0円	0円	3,640円	5,600円

—差額通知発送者のジェネリック医薬品切り替え状況（平成26年5月30日発送分）—

【国保分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成26年4月に42人、平成26年8月に104人と増えている。また、削減効果累計額は、100万3,360円となっている。

【退職分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成26年7月が14人と最も多くなっている。また、累計額10万5,320円となっている。

【国保分】	通知出力月	効果分析月				
	平成26年3月	平成26年4月	平成26年5月	平成26年6月	平成26年7月	平成26年8月
通知発送人数	893人	568人	633人	584人	627人	547人
ジェネリック医薬品切り替え人数 （割合）	—	42人 (7.4%)	44人 (7.0%)	89人 (15.2%)	98人 (15.6%)	104人 (19.0%)
軽減効果額	—	107,390円	109,990円	232,080円	288,330円	265,570円
削減効果額累計	—	107,390円	217,380円	449,460円	737,790円	1,003,360円

【退職分】	通知出力月	効果分析月				
	平成26年3月	平成26年4月	平成26年5月	平成26年6月	平成26年7月	平成26年8月
通知発送人数	86人	61人	64人	56人	59人	44人
ジェネリック医薬品切り替え人数 （割合）	—	7人 (11.5%)	10人 (15.6%)	8人 (14.3%)	14人 (23.7%)	9人 (20.5%)
軽減効果額	—	14,140円	17,080円	13,580円	32,410円	28,110円
削減効果額累計	—	14,140円	31,220円	44,800円	77,210円	105,320円

—差額通知発送者のジェネリック医薬品切り替え状況（平成26年11月28日発送分）—

【国保分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成27年1月に54人、平成27年2月に42人と増えている。
また、削減効果累計額は、43万1,500円となっている。

【退職分】のジェネリック医薬品への切り替え者数は、平成27年2月は7人となっている。
また、削減累計額3万3,120円となっている。

【国保分】	通知出力月	効果分析月				
	平成26年9月	平成26年10月	平成26年11月	平成26年12月	平成27年1月	平成27年2月
通知発送人数	649人	398人	483人	431人	478人	397人
ジェネリック切り替え人数 (割合)	—	10人 (2.5%)	19人 (4.0%)	33人 (7.7%)	54人 (11.3%)	42人 (10.6%)
軽減効果額	—	19,980円	44,780円	93,130円	160,110円	113,500円
削減効果額累計	—	19,980円	64,760円	157,890円	318,000円	431,500円

【退職分】	通知出力月	効果分析月				
	平成26年9月	平成26年10月	平成26年11月	平成26年12月	平成27年1月	平成27年2月
通知発送人数	62人	39人	45人	37人	40人	38人
ジェネリック切り替え人数 (割合)	—	0人 (0%)	0人 (0%)	3人 (8.1%)	3人 (7.5%)	7人 (18.4%)
軽減効果額	—	0円	0円	8,120円	5,880円	19,120円
削減効果額累計	—	0円	0円	8,120円	14,000円	33,120円

3 目的・目標の設定

(1) 健康課題の抽出

被保険者情報

- ・被保険者数が減少しており、高齢化傾向である。

医療費データ

【費用額】

- ・津島市の総医療費は、平成26年度に約50億円であり、年々増加傾向である。
- ・1人当たり費用額(一般)は、平成26年度23万2,848円、また1人当たり費用額(退職)は、36万7,098円で、県より高くなっている。
- ・年齢階層別診療状況(一般+退職)では、35歳～39歳、50歳～54歳、60歳～64歳で「1人当たり費用額」「レセプト1件当たり費用額」が県より高くなっている。
- ・疾病分類別では①循環器系②悪性新生物③消化器系④内分泌栄養及び代謝疾患と続いている。この4疾患で医療費全体の54%を占めている。ただし、消化器系全体の71%を歯科(歯肉炎・歯周疾患)で占めている。

【受診件数】

- ・疾病分類別にみると①消化器系②循環器系③内分泌栄養及び代謝疾患と続いている。この3疾患で受診件数全体の52%を占めている。ただし、消化器系全体の85%を歯科(歯肉炎・歯周疾患)が占めている。

【生活習慣病の医療状況】

- ・受診件数、費用額とも、外来では、「高血圧症」「糖尿病」「脂質異常症」が上位を占めている。入院では、「精神」「がん」「脳梗塞」「脳出血」が上位を占めている。
- ・受診件数、費用額とも、外来の「高血圧症」「糖尿病」「脂質異常症」と入院の「脳梗塞」「脳出血」では、県や国と比べ1.2倍高くなっている。

人工透析者の状況(各年1月～12月集計)

- ・平成24年53人をピークに平成26年は38人と減少傾向である。男性の方が女性の約2倍から3倍、高くなっている。
- ・年代別割合では、60歳未満の割合が増加傾向にある。

特定健診・特定保健指導の状況(各年4月～3月集計)

特定健診の受診率は、増加傾向であり、平成25年度は県平均を上回っている。

特定保健指導の終了率は、低迷している。

重複・頻回受診の状況

- ・重複受診では、「がん」「糖尿病」などの症状が重症化しており、総合病院の受診が多い。
- ・頻回受診では、「膝関節痛」「腰痛」など、リハビリや痛みの緩和処置と精神ケア(精神疾患を有する者の社会復帰の回復を目的として個々の患者さんに応じたプログラムに従ってグループごとに治療するもの)で90%以上を占めている。

ジェネリック医薬品の利用状況

ジェネリック医薬品の利用は増加傾向にある。

(2) 目的と目標

目的

- ・年齢を重ねて「いきいき」とした生活が送れる。

短期(年間)目標

- ・健康診査の受診率、利用率が向上する。
- ・一人一人が身近に健康づくりに取り組める環境がある。

中長期(最終年度まで)目標

- ・健康寿命(日常生活を自立して過ごせる期間)の延伸がされる。
- ・一人あたりの医療費の増加率が抑制される。

4 保健事業の実施内容と評価

(1) 生活習慣病の発症を予防するため、特定健診や特定保健指導の実施率の向上を図る取組

【特定健診受診状況のデータを活用する。】

事業名	対象者	事業内容	評価(事業の成果)
特定健診の周知	40歳～74歳	受診券の個別通知、広報やポスター等できめ細かな周知を行う。	受診率 目標:平成29年度受診率 60%
特定健診の受診勧奨	40歳～74歳	40歳・45歳・50歳(受診料無料)の者及び、過去5年間の特定健診受診状況から複数年にわたり健診を受診していない者を抽出しはがきや電話等による受診勧奨を行う。	
特定健診の受診環境の充実	40歳～74歳	受診しやすい実施方法を検討し拡大する。	
特定保健指導の利用勧奨	特定保健指導該当者で40歳～74歳	電話やアンケート等で利用勧奨を行う。	特定保健指導の利用率 目標:平成29年度利用率 60%
特定保健指導の利用環境の充実	特定保健指導該当者で40歳～74歳	参加しやすい実施方法を検討し、拡大する。	
生活習慣病の発症予防	40歳～74歳	非肥満者で高血圧・糖尿病予備群や慢性腎疾患予備群者に、食事や運動を取り入れた予防教室や健康相談を実施する。	健診結果値の改善率 目標:改善率50%
健康まつり	全員	食生活など健康に関する知識の普及と啓発	—
健康マイレージ	全員	健康意識を高めるため、特定健診の受診を健康ポイントの対象とする。	—

(2) 疾病の重症化を予防する取組

【レセプト等データを活用して、疾病リスクの高い者を抽出する。】

事業名	対象者	事業内容	評価(事業の成果)
生活習慣病の重症化予防	高血圧、高脂血症、糖尿病などで治療中の方	主治医や医療機関との連携のもとに継続的な治療や生活習慣改善で重症化予防に向けた教育や支援を行う。	検査値の改善率 目標:改善率50%

(3) 医療資源の有効活用に向けた取組

事業名	対象者	事業内容	評価(事業の成果)
優良世帯表彰	該当世帯	5年以上療養給付、療養費の支給及び法令給付を受けたことがなく当該年度内に国保税を完納している世帯に対し、健診などの自己負担金2万円までを支給する。	自己負担金申請者数
医療費通知	受診世帯	毎年8月(1月～6月受診分)と2月(7月～12月受診分)に医療機関等に支払った医療費(10割)を通知する。	—
ジェネリック医薬品差額通知	該当世帯	生活習慣病受診者に年2回(5月・11月)に差額通知を発送する。	ジェネリック使用割合 目標:使用割合70%
重複・頻回受診者訪問指導	重複・頻回傾向のある被保険者	対象者のうち3か月以上継続受診している方に、療養上の日常生活指導、受診や服薬等に関する支援等を実施する。	受診行動の変容率 目標:変容率10%

5 計画の見直し

保健事業実施計画(データヘルス計画)の最終年度である平成29年度に、計画に掲げた目的・目標の達成状況の評価を行います。

また、目的・目標の達成状況を踏まえて実施計画の記載内容の見直しを行います。

6 計画の公表・周知

策定した計画は、市のホームページに掲載するなど公表・周知します。

7 事業運営上の留意事項

地域の健康づくり推進に関わる機関・団体等や市内の衛生部門(健康推進課)や介護保険部門(高齢介護課)などの関係各課が連携して取り組んでいくものとします。

8 個人情報の保護

本市における個人情報の取扱は、津島市個人情報保護条例(平成16年12月24日条例第27号)によるものとします。

作成・発行 : 津島市健康福祉部保険年金課
電話0567-24-1111(代表)